

# 香川県の地震

令和7年（2025年）10月

## 香川県の地震活動

|                |     |   |
|----------------|-----|---|
| 震央分布図、断面図      | ・・・ | 1 |
| 地震概況           | ・・・ | 1 |
| 香川県の地震表（震度1以上） | ・・・ | 2 |
| 震度分布図          | ・・・ | 2 |

## 南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

|                     |     |   |
|---------------------|-----|---|
| （令和7年（2025年）11月10日） | ・・・ | 3 |
|---------------------|-----|---|

## 地震一口メモ

|                           |     |   |
|---------------------------|-----|---|
| 緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について | ・・・ | 4 |
|---------------------------|-----|---|

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

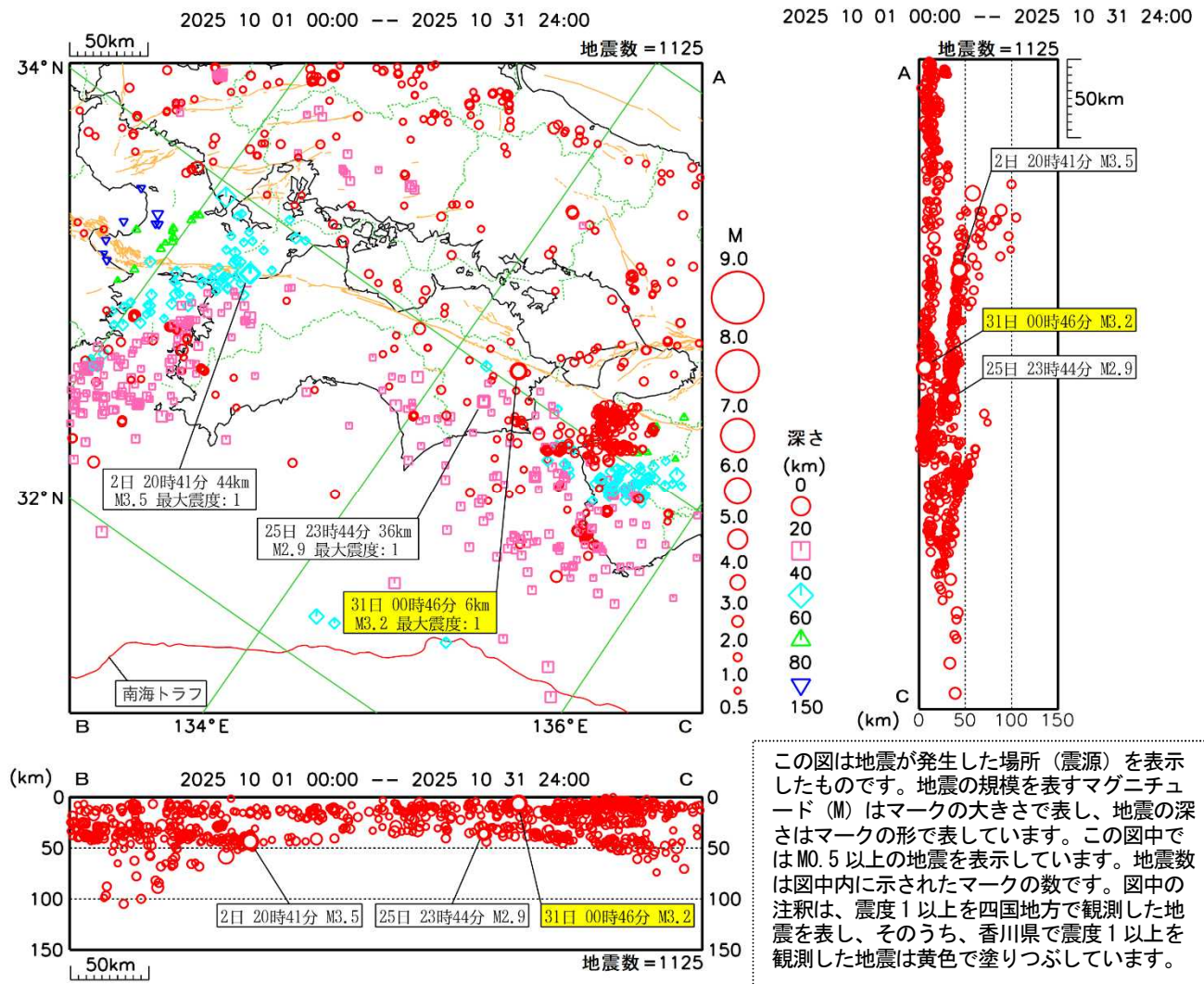
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

# 【香川県の地震活動】

2025 年 10 月

## ◎震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

## ◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の1回でした（前月は0回）。

31日00時46分 徳島県北部の地震（深さ6km、M3.2）により、東かがわ市で震度1を観測しました。  
この地震では、徳島県徳島市・小松島市・佐那河内村・石井町・神山町・藍住町・吉野川市・美馬市・阿波市・阿南市で震度1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震（上記の地震を除く）は、次の2回でした。

2日20時41分 伊予灘の地震（深さ44km、M3.5）により、愛媛県西条市・松山市・久万高原町・八幡浜市・内子町で震度1を観測しました。この地震では、広島県、山口県で震度1を観測しました。

25日23時44分 徳島県南部の地震（深さ36km、M2.9）により、徳島県美馬市・牟岐町で震度1を観測しました。

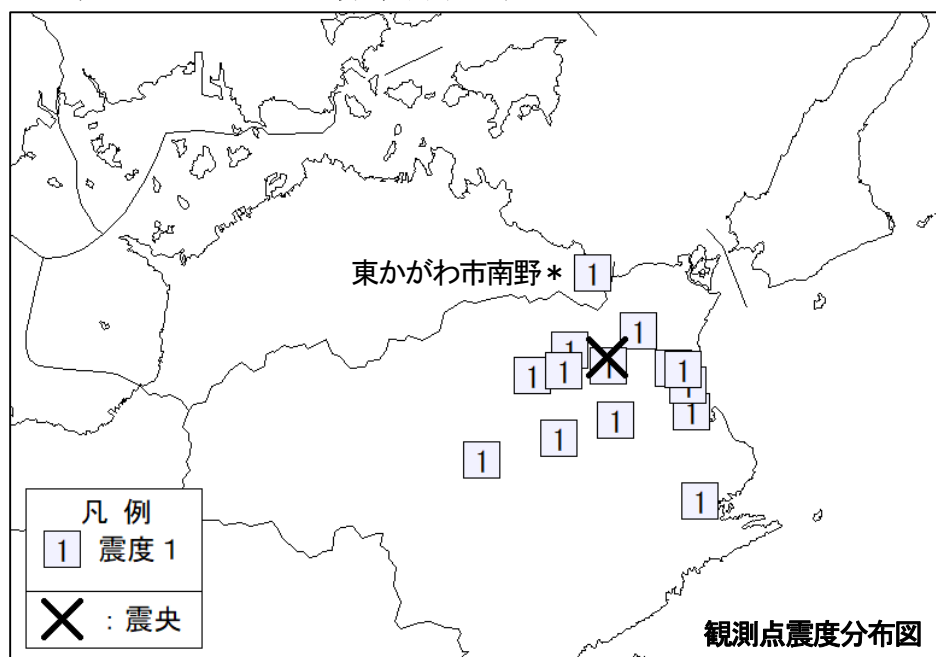
## ◎香川県の地震表（震度 1 以上）

| 震源時（年月日時分）<br>各地の震度                             | 震央地名  | 緯度          | 経度           | 深さ  | マグニチュード |
|-------------------------------------------------|-------|-------------|--------------|-----|---------|
| 2025 年 10 月 31 日 00 時 46 分<br>香川県 震度 1：東かがわ市南野＊ | 徳島県北部 | 34° 05.2' N | 134° 26.2' E | 6km | M3.2    |

＊は気象庁以外の震度観測点

## ◎震度分布図

2025 年 10 月 31 日 00 時 46 分 徳島県北部の地震



＊は気象庁以外の震度観測点

# 【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

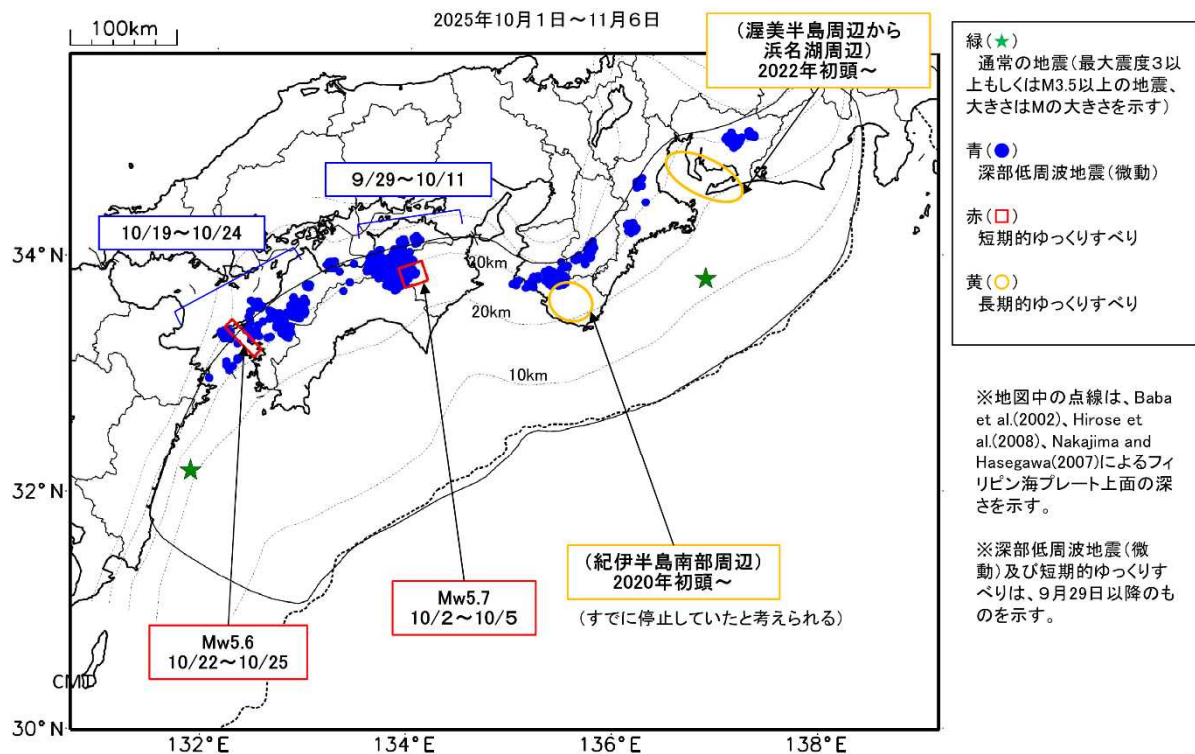
令和7年(2025年)11月10日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

## 【調査結果(概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が高い(詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」参照)と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

## 【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。  
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。  
短期的ゆっくりすべり.....【四国東部】気象庁の解析結果を示す。【四国西部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。  
長期的ゆっくりすべり.....国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

南海トラフ地震関連解説情報について ー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2511/10a/nt20251110.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>



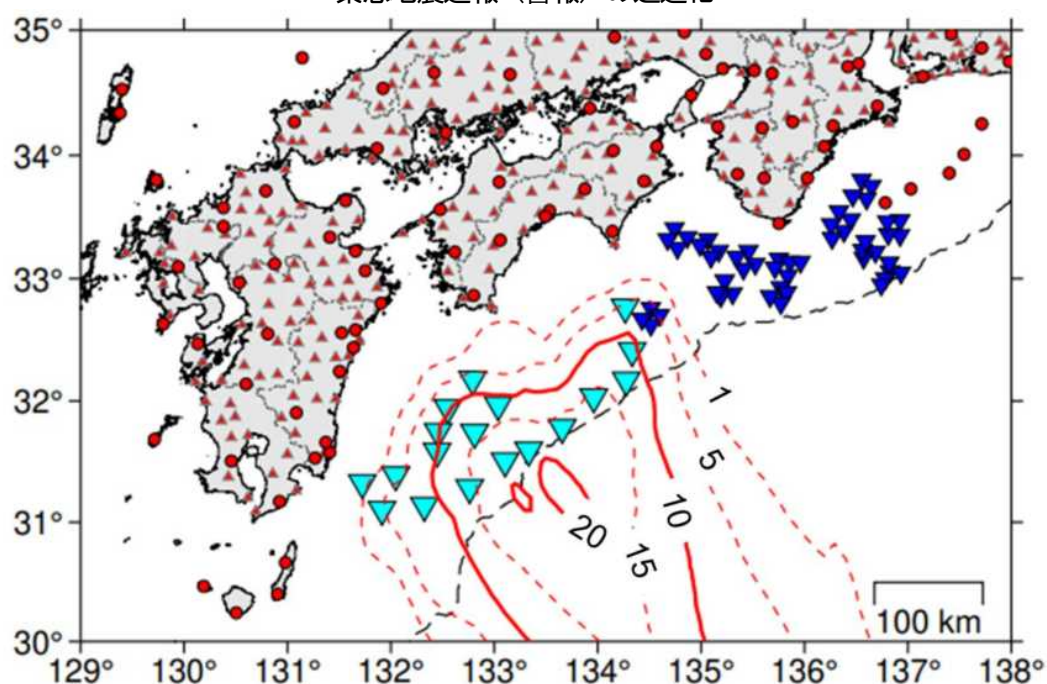
## 【地震一口メモ】

### 緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について

気象庁では、海域で発生する地震に対する緊急地震速報の発表の迅速化を図るため、関係機関の協力を得て、沖合に設置された海底地震計の観測データの緊急地震速報への活用を進めています。

「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」（下記説明参照）の内、「沖合システム」（18 地点）について、地震計データの品質確認等を行い、緊急地震速報へ活用する準備が整ったため、令和 7 年 10 月 15 日（水）12 時から緊急地震速報への活用を開始しました。これにより、四国沖から日向灘にかけて発生する地震について、発表する緊急地震速報（警報）が、最大で 20 秒程度早まることが期待されます（下図）。

南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）「沖合システム」の観測データの活用による  
緊急地震速報（警報）の迅速化



●：緊急地震速報の震源推定に活用している気象庁の観測点

以下は、緊急地震速報の震源推定に活用している国立研究開発法人防災科学技術研究所が運用管理している地震・津波観測監視システムを示す。

▼：地震・津波観測監視システム（DONET）の観測点

▲：高感度地震観測網（Hi-net）の観測点

▼：今回活用を開始する南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）「沖合システム」の観測点

図中の値は、その地点で地震が発生した場合に、緊急地震速報（警報）の発表が、どの程度早まるかを計算した理論上の最大値（秒）を示す。

#### 南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）

国立研究開発法人防災科学技術研究所が、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献することを目指し、南海トラフ地震の想定震源域のうち、それまで観測網が設置されていなかった西側（高知県沖から日向灘）の海底に整備した、地震計と水圧計を備えた地震津波観測網です。この観測網は、令和 6 年に整備が完了した「沖合システム」と、令和 7 年 6 月に整備が完了した「沿岸システム」から構成されます。

N-net：Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis

報道発表のページ：[https://www.jma.go.jp/jma/press/2510/08b/20251008\\_N-net.html](https://www.jma.go.jp/jma/press/2510/08b/20251008_N-net.html)